知事記者会見（平成23年11月28日）

●知事発表

なし

●幹事社質問

（1）災害廃棄物の受入れについて

（2）日本海側拠点港の選定について

時間：12：59～13：43

場所：プレゼン室

（幹事社）

今日は発表事項がないということですので、幹事社質問から入らせていただきます。

1点目は、がれきについてです。

先日、宮古に視察に行かれましたけれども、まだ市町村の方では受入れのめどが立っていない状況です。

今の段階で、この視察を経た上で、がれき受入れに向けてどのような条件が必要だとお考えになっていらっしゃるのかということと、もし受入れるのであれば今後どのような具体的な手続きが必要だと考えているかということをお聞かせください。

（知事）

一つは、岩手県を通じ、4市町村の（がれきの）受入れを打診されています。

今のところ、野田村のものは、岩手県から、がれきの放射性測定ではほぼ検出されないという報告があり、その他の3市町村の分は、大体今週か来週はじめぐらいまでには測定値を整理した形で情報が提供される予定です。

それが、国の基準値、1キログラム当たり100ベクレルを下回っているということが前提になると思います。

しかし100ベクレルに近い数字なのかゼロに近い数字なのかということにより、今度は焼却との関係で考察が出てきます。

国の基準に合うものを受け入れるとして、それが焼却対象なのかそうでないのかという区分、どのようなロットで受け入れるのか、あるいは、途中の測定の仕方、様々な運び方、運ぶ技術的なもの、そういう細かい点について今度詰めていくということになります。

いろいろ想定作業はしていますが、測定値が来た段階で、今度は確定的な作業が始まり、県としての協力の仕方、考え方、その確認の仕方等をまとめた段階で市町村の方にこれを提供するということになります。

当然、市町村の方では住民のご理解もいただかなければなりませんし、設備能力との調

整もあると思います。

そういうものを踏まえて市町村は判断なさると思いますので、ある程度きちっとした段階でないとお示しすることはできないということでもあります。

現地へ赴き、調査した結果では、過疎地でもあり、がれきをすぐ処理しないと復興の妨げになる状況ではないということで、若干時間がかかっても差し支えないものが中心ではありますが、いつまでもそういう状況にはしてられないということでもあります。

そういうことを踏まえながら、今週あるいは来週のはじめに結果が出た段階で、ありとあらゆる考察をしながら（県民の皆さんに）示さないと不安を増す場合もありますので、むしろ時間的な問題というよりも、そういうファクターをいかにたくさん示して、大丈夫だということ、市町村に問いかけるということになるかと思えます。

(幹事社)

来週以降、例えば来月中にもというお話でしょうか。

(知 事)

県としては、12月のそれほど遅くではなく、もうちょっと早めに市町村の方にまとめた形で考え方、あるいはデータを提供します。

(幹事社)

12月中の早めということは、上旬とか中旬とかでしょうか。

(知 事)

これは技術的な話ですので焦ってやるものではないし、技術的なものについてはいろいろな意見を踏まえなければならないし、数値は出されますが、どういう形で受け入れるかということ、現地とやり取りしなければなりません。

例えば、こういうふうに分類してほしいとか、ワンロットこのぐらいでこういう運搬方法等とこちらが言っても、それができるかできないか相手方の考えもあります。

今、直接復興の妨げになっているところではなく、相手方も大変忙しく、(がれき処理について)急いでいるわけではないので、我々から今度は相手方に投げかけますが、返ってくるものがスピーディーになるのかどうかは分かりません。

石巻だとかと違い、必ずしも現地がすぐ寄せないと困るという状況ではなく、我々としてはもっと早くこのデータをもらいたかったのですが、ようやく出てきたという状況であり、そういう時間的な考え方でやっております。

(幹事社)

では2点目で、日本海拠点港の選定についてですが、改めて機能別拠点港になり、今後どのように整備を進めていきたいかというところをお願いします。

(知 事)

秋田港が機能別拠点港、能代港は拠点港にはなりませんが、それに準ずる扱いで

ありました。

二つほど大きな課題があります。

一つは、秋田港、能代港とも、どちらも防波堤がまだ完全な状況にはなっておりません。

秋田港と能代港の直轄の防波堤等々について、かなりまだ時間がかかるという計画ではありますが、これをできるだけ早く完成していただくよう、国に直轄分の工事費の確保についてこれから要望していきます。

秋田港は国際コンテナターミナルについて今1期工事をやっており、引き続き2期工事もありますので、機能整備については、県の役割の部分はちゃんとやります。

もう一つは、荷主の確保ということで、拠点港になったことを踏み台にして、ロシア、韓国、中国、国内のニーズも含めてポートセールスをより強化し、秋田港にたくさん荷物が集まるよう、また荷物が集まりますと航路数も増えますので、そういうことに結びつけていくという貿易戦略をより一層強化します。

能代港については、酒田港との具体的な連携の方策について、まだ宿題になっています。

外に向かってのアピール性が若干弱く、酒田港と能代港の様々な関係業者も含めての協議会や、共同の荷主に対するアピール、役割分担、船主さんに対しより効率的に秋田港と酒田港に荷物を仕分けしてもらえるような情報提供等、ソフトの面の連携をこれからよりきちっとやっていかなければならないと思います。

(幹事社)

この2点に関して、各社さんから質問がありましたらお願いします。

(記者)

がれきの問題についてお聞きいたします。

知事、以前から本心としては受け入れたいというようなことを、繰り返しおっしゃっていらっしゃいますけれども、今もそれは変わらないかということを確認します。

(知事)

国の最初の基準の8,000ベクレルというのは、ぎりぎりの場合非常に問題があり、その段階では市町村としても納得しないのではないかとということでしたが、国の方で100ベクレルという基準が出て、この値については、少なくとも秋田県のものでも焼却灰の100ベクレルを超えているものもありますし、岩手県から要望がある地域については、かなり低いものが大半だと思います。

100ベクレル以内に収まるものがたくさんあるのであれば、これは引き受けていくのが本当の復興支援になるのではなかろうかと思えます。

たくさんの反対意見もあろうかと思えますが、前は反対意見が大半でしたけれども、受け入れるべきだという意見もかなり寄せられています。

常識的に考えますと、そう秋田の状況と変わらないところですので、これはいたずらに神経質になる必要は私はないのではないかと思います。

一定の意図を持って反対するのはいいでしょうけれども、県民世論全体として、秋田と変わらないものであれば受け入れてやったらというのが自然の姿ではないかと思いますの

で、100ベクレルに決めたら絶対100ベクレル以上のものにはならないということをきちっと確認するのが今度は我々の責任であり、そういうことを踏まえ、手法も含めて細かく決めて、県民の皆さんに言わないとなりませんので若干時間はかかりますが基本的には受け入れたいと思います。

(記者)

先日の県政協議会の際も、知事ご自身の口で、県民に対して受け入れる際にはご自身が説明なさるといってお考えも示されていましたが、これはどういう場でどういう形で説明されるのでしょうか。

(知事)

記者会見の席上で、細部も含めてきちっとした情報を県民の皆さんに提供して、報道をしていただきたい、今までのような形で記者会見を通じて協力を呼びかけるということがあります。

(記者)

先日、協議中の市町村があるというようなお話もされていましたが、現段階でも明らかにできない状況という解釈でよろしいのでしょうか。

(知事)

それぞれの市町村でも県の方針がある程度きちっと決まらないと、住民に対してもお話できないでしょうから、それぞれ勝手に市町村でやってくださいというわけにはいかないと思います。

基本的なところは、県が様々な技術的なものも含めて一定の方向性を定めますので、すべての市町村、一部事務組合に対し、県としてはこういう方向での受入れが考えられるということを再度呼びかけることになると思います。

その中でリアクションがあったところとは、今度個別に協議していくこととなります。

(記者)

過去2回なさっている意向調査を再度、いろいろなデータ、手法等々揃った段階でもう一度反応を見るという解釈でよろしいでしょうか。

(知事)

前は2回とも国の指示でありましたから、これは県としてということになります。

(記者)

これから雪の季節になりますが、冬季にがれきを受け入れるとすると、気象的な面で難しい点があるのかというところが一つ。

もう一つ、がれきの受入れをめぐるっては東京都が先行して受け入れています、東京湾の埋立地に埋めているということで、本県とは随分事情は違いますが、参考になる部分が

あるとすればどういうところが参考になるのか。

既に県の職員を東京都に派遣なり、ないしは東京事務所の職員を派遣して情報収集等どのようにされているかをお聞かせください。

(知 事)

具体的に東京都に派遣しているということはないですが、東京の焼却した場合の濃度、焼却した際の前後のデータは欲しいということは言っています。

東京都は非常に交通が混雑しているところですので、がれきが途中で散乱したり外に漏れたりすると、これも問題になりますので、そういう運搬についてのいろいろなチェックシステム、東京都は、秋田県と比べて専門家も機械もたくさんありますから、チェック体制は大分きちっとやっていますので、そういうデータについては今収集をしているというところであります。

それから冬季ということについては、こちらの施設能力に合わせて運びますから、特別問題はないのではないかと思います。

スリップ事故などがあると困りますので、安全に運ぶということが、冬季の場合、非常に大きな問題になると思いますが、特別な要素はないと思います。

(記 者)

がれきのことですが、受入れに際して、民間の業者さんでつくる団体に協力をいただくという、当初県が考えた受入れのスキームがありました。そのスキームはもう一回考え直すということによろしいのでしょうか。

(知 事)

スキームそのものについて、全く別のものを考えるということとはございません。

(記 者)

今まで県の拠点港に関しては秋田港を中心に考えられてきて、能代港に関しては酒田港からの提案があつての申請だったと思いますが、これから県としてそのポートセールスの面も特にそうですけれども、こういった強化策を県としては講じていきたいと思われていますでしょうか。

(知 事)

拠点港については当初、一県に一つというよりも日本海側で三つぐらいだと国から方針が出されましたが、その後、あまり数は問わない、能力のあるものについて(選定する)ということで、リサイクル港湾の酒田港の話もあり、連名で申請するということになりました。

国に予算をつけてくれということは一方ではありますが、申請した中身について、我々が具体的に何をこれからやっていくのかということが、一番の本質です。

例えば能代港について、海外も含め様々な荷物を持ってくる際に、荷主さんがいかに便利になるのか、いかに効率的になるのかという荷主さん間の橋渡しも必要です。

寄港の距離だとか停泊日数でどうなるのか等という細かな試算もしながら、誰がそこを調整するのかということ、酒田港と能代港、それに業者も含めた協議を相当具体的に来年からやらなければならないと思っています。

明らかに能代港と酒田港は扱うものが違って、能代港は、リサイクルといっても、DOWAさんを中心にしたかなり高度なもの、酒田港の方は、廃材だとかちょっと違う種類のもので、将来的には、能代港で海外からの電気製品等のレアアース、レアメタルも受けたいというのが本音です。

今の法律や国際貿易のルール上等で難しい面もありますけれども、DOWAさんはタイに工場がありますから、そういうところとの連携等をこれからやっていくということで、私もタイに視察に行くことになっていましたが、水害で行けなくなり、ちょっと先延ばしになっています。

(記者)

秋田港について日本海側拠点港の関係で、ポートセールスを強化していくということですが、例えば来年度、今年度に比べて訪問するところをどのぐらい増やすとか、その港を利用してくれるところについて何らかの優遇措置を講ずるとか、今の段階で何かお考えがあれば教えていただけますか。

(知事)

実は今日から来年度の政策の検討会議が始まったところですが、海外戦略は今年以上に、よりターゲットを絞って具体的にやっていかなければならないと思っています。

今までつながりのあるところ、途中段階まで来ているところを、もっと成熟化させていかなければならないので、今、戦略を組んでいます、まだもうちょっとかかります。

(記者)

がれきの件について、来月、県としての方向性を市町村に伝えていくということですが、具体的にどのような項目を市町村に対して情報提供していくお考えでしょうか。

(知事)

がれきの物理的な処理の過程と、その段階のチェックということですので、どうやって運ぶのか、何を運ぶのか、いつ検査するのか、それをどう処理するのか、その処理の後にどういうチェックをするのか、運搬の段階でどうやって安全確保をするのか等、いろいろ細かい一連の流れについての基本指針みたいなものを出して、こういうやり方だったら全体として大丈夫ですということになると思います。

(記者)

昨日の大阪ダブル選挙の結果についてのご見解をお聞かせください。

(知事)

野次馬的な感覚から言うと、痛快であります。

ただ、これをきちっと分析をした後どうなるかということ、一つは大阪都構想を掲げたということについて、大阪府民にとっては、前向きなことです。

大阪というのは江戸時代まで日本の政治経済の中心であり、江戸時代になっても、すぐ隣の京都に天皇がお住まいになって、大阪が事実上、経済の中心でありましたが、首都が東京になり、大阪がほかの県と同じような状況ということで、私がもし大阪人だったら、第二首都、または首都の復活は、大阪人にとっては楽しい題材です。

大阪都という目に見える形の、しかも大阪にとっては前向きなことを題材にして選挙を戦ったことがやはり非常によかった。

既成政党も含め現状の国政に対する裏返しであり、ものすごい歯切れがよくて、すっきりするという側面があったのではないかと思います。

もう一つは、社会背景とすると、景気が悪くて閉塞感が漂うと、やや強い政治姿勢が支持される傾向になってきますが、これは行き方によっては危ない場合もあります。

その辺のバランスをどう取るかがこれからの難しい問題だと思います。

また、大都市制度も含めての地方自治について一つの大きな節目です。

実は先般の全国知事会でも、都道府県と市町村のあり方について、今いろいろ問い直す時期がきていて、私は穏やかな形で市町村との機能合体などと言っていますが、二重行政、三重行政の問題をどう処理するのかということが非常に大きな問題になっています。

それぞれの地域に合った行政と言いながら、県として市町村との二重行政をどうするのか。

都道府県と市町村のあり方について、大阪の今回のことが様々な面に派生してくると思います。

我々としては、地方に対する裁量権を相当与えてもらえれば、市町村の形、都道府県の事務、市町村と県のあり方も、今以上にドラスティックな改革ができるので、我々からすると興味津々で、大阪都ができるかどうかは別にして、橋下さんがかなり国との道をつけるでしょうから、その結果が自治体の裁量権の拡大につながるということは私は望ましいことだと思います。

(記者)

今の知事おっしゃったことに一つ補足してお尋ねします。冒頭で非常に維新の会の躍進について痛快だと。これどういう意味でしょうか。

(知事)

日本の今の閉塞感の中で、片方の平松さんですか、国政で喧嘩している既成政党が全部こぞって、そこだけに限って共闘みたいな形になっており、これは外から見ると、まこと古くさい。

既成政党が自分たちのテリトリーを侵されまいとして保身に走っているとしか見えないです。

それをぶち壊すということに対して、これは痛快だと思う人が多いのではないのでしょうか。

橋下さんの都構想を否定する論拠としての選挙の様々な政策が出てこなかったです。

東京都と同じ格好になったら多分大阪の方はそっちの方が格好いいと思いますし、それが駄目だという根拠は出せないです。

結局、何となく橋下さんの個人攻撃みたいになって、週刊誌が急に橋下さんの悪口だとかあまり関係ないことを出して、ああいうのが出ると、一般の人は必ず判官びいきになります。

やはりあの反骨精神に対して割と喝采を送った人が多いのではないのでしょうか。

橋下さんのやり方は私はできませんし、そんな度胸もないけれども、ただ、やったなという感じです。

(記者)

先ほど自治体の裁量権が拡大につながるの望ましいのではないかとお話になりましたが、その裁量権というのは、結局その県と市町村のあり方の見直しにこの結果につながるだろうというお考えですか。

(知事)

今の二重行政、なかなか難しい面がありますが、私は一番最初に二重行政（の解消）ということを知事選挙のときに話しましたが、県は県、市町村は市町村、国も同じことをやっていて、これは絶対的にかなり効率が悪いところがあります。

小さい自治体の方が住民の身近にあって非常にきめ細やかということで、その分を残しながらも、指揮命令系統などについて、果たして小刻みに権限者がばらばらであることが今の時代に合っているかとなると疑問な点もあります。

基本的なものについては各市町村に残してもいいでしょうけれども、ものによっては県と市で一緒にやった方が様々な人も財源も効率よくできるし、もっとダイナミックにできることがあるのではないかと、例えば県や市の条例でやれるようになれば、そういう仕組みを作った県というのは非常に強くなると思います。

三越と伊勢丹が合併する時代ですし、農協も商工会も全部合併しているので、全く今までと自治体の政治システムが同じだというのは、やはり遅れていかざるを得なくなります。

観光などは、とにかく県と市町村と一緒にやろうと言っているのはそこで、事実上、横手市とはそのような形でやっています。

(記者)

知事が4月に体調を崩されて公務復帰されてから12月上旬で半年というタイミングになると思います。

今現在、知事の体調の状況はいかがなものなのかということをお尋ねしたいと思います。

(知事)

おかげさまで6月3日に復帰してから、すべて予定どおりの行動をさせていただき、3回海外出張もしています。

最初は月2回の診察でしたが今は月1回、ほんの30分ぐらいの診察で、今のところ病気になる前に比べ、各種血液検査の結果は若干経過観察がありますがほぼ正常で、多分皆

さんの方が経過観察はもっと多いと思います。

食生活とお酒の方も、かなり厳格に守っていますので、今は体重も減り、かなり歩いても息切れしなくなりました。

今まで脂がのっていましたがやせましたので、寒さがちょっとこたえます。

その分以外は通常で健康状態を保っていますので、今後も乗り切れると思います。

(記者)

左手足の方の状況はどこまで回復していらっしゃいますか。

(知事)

足の方は、まだ全力疾走までいきませんが駆け足はできます。

手の方は、目をつぶって小さな針だとかを指すのがなかなか難しいです。

ただ日常生活では今のところ全く不便はございません。

(記者)

お酒も解禁なさったということでしょうか。

(知事)

はい。

(記者)

いつ頃からどれぐらいの量になったのでしょうか。

(知事)

10月頃からは、週に3日ぐらいは休肝日を設けなさいと言われていました。

日本酒に換算すると2合ぐらいまでは、週に4回ぐらいまではいいだろうと、ただ、今までみたいに塩っ辛いものをつまみにするのではなく、できるだけ野菜だとか果物だとか、塩分が少なく、油っこくないものを、あまり大食いしないでということ言われていますので、それを守っています。

(記者)

ではそれを守って週4回程度ということなんですね。

(知事)

はい。あんまり何もしないと、ストレスで心の病になると困りますので、そういうことで気をつけています。

(幹事社)

よろしいでしょうか。

では、会話を終わります。ありがとうございました。